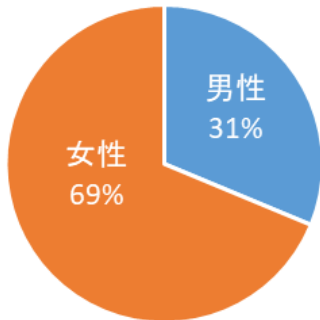


5. アンケート集計結果

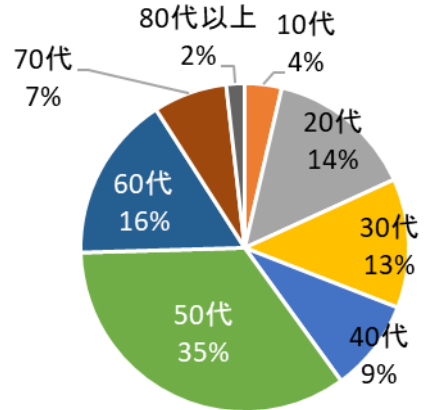
アンケート集計結果 (回収数 60)

1. 回答者情報

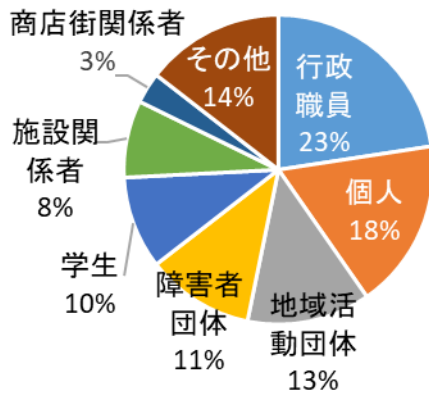
① 性別



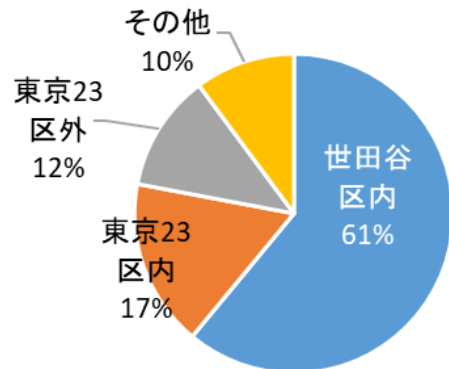
② 年齢



③ 立場・所属

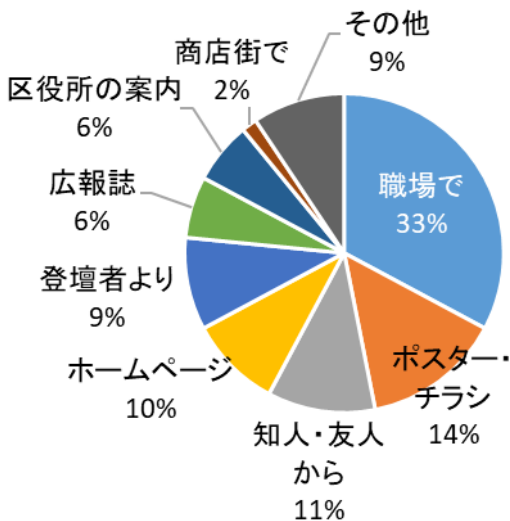


④ お住まいの地域

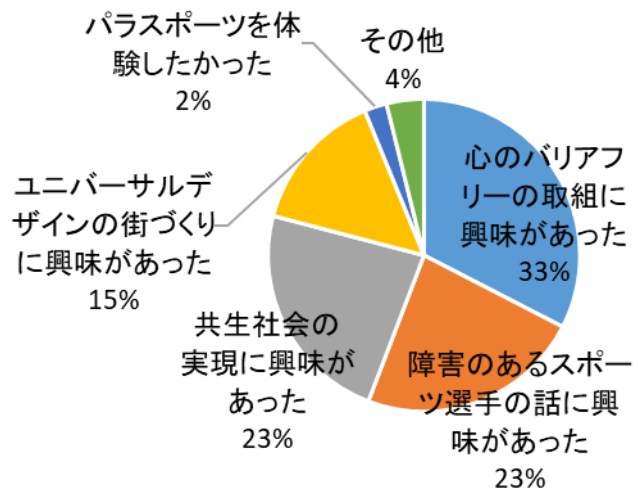


2. 参加目的 (いずれも複数回答可)

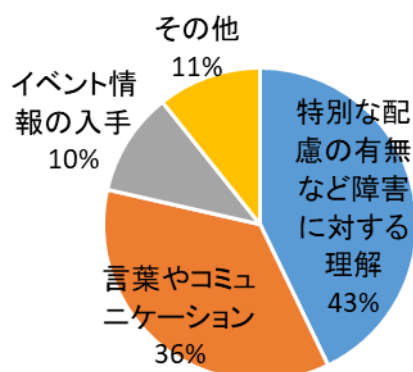
① このイベントは何で知りましたか



② どのようなことを目的に参加しましたか

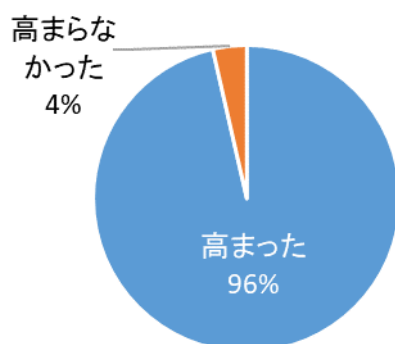


③参加する前に不安だったことや困ったことは何ですか



3. このシンポジウムに参加して

①共生社会実現に向けた取組みへの興味・関心は高まりましたか

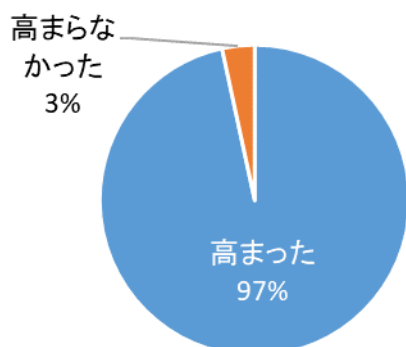


<主なご意見>

- ・施設・設備のバリアフリー、法制度もさることながら、コミュニケーションの重要性を深く感じた。
- ・商店街の取組みに大変感心した。
- ・面倒でも当事者が参加することは重要だと思った。
- ・社会モデルの考え方をもっと浸透させたいと感じた。
- ・障害者、健常者問わず全ての方々が平等で豊かな社会づくりを目指すという理念に心を打たれた。

- ・スポーツ以外のイベントにも参加したい。
- ・自分もヘルプマークを持っている（見えない障害がある）ので、関心は高い。

②パラリンピックへの興味・関心は高まりましたか

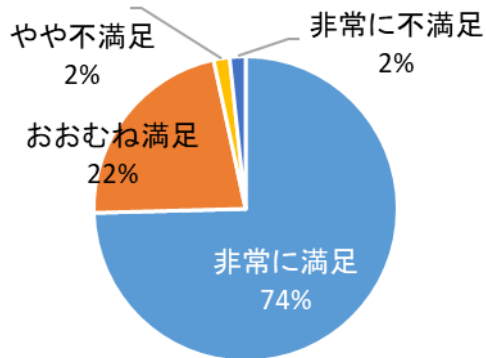


<主なご意見>

- ・車いすラグビー・パラスポーツを、観戦・応援したい。
- ・本物を生で見たい。実際に車いすに乗ってみたい。
- ・登壇者が出場することで関心が高まった。
- ・日本以外にも身近に感じられる選手・チームがいると楽しみが増える。
- ・パラスポーツの競技を知らないことに気づいた。
- ・元々関心はあったが、さらに自分にできることはないか、考えるきっかけになった。

- ・車いすラグビーのことは知らなかったが、メンバーの話を聞いて応援したくなった。
- ・アメリカパラリンピアンが仰る「スポーツの力」を来年のパラで体感したい。

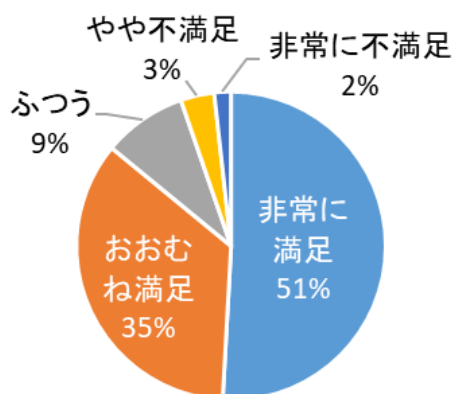
③ 第一部の満足度はどの程度ですか



<主なご意見>

- ・アオキさんの話はとても分かりやすく、内容がよかった。
- ・アメリカの事情が分かった。
- ・ADA法について興味を持った。
- ・障害がある方に対してステレオタイプな認識で対応し、過剰に手助けしたりこちらがリミットを設定することが、とても失礼だと改めて考えさせられた。
- ・車いすユーザーとして共感できる部分が多かった。
- ・誰にでも挑戦する権利があるというのは、本当だと実感した。
- ・実際に話を聞くというのは大事だと痛感した。
- ・自分が見ている視点の狭さを感じ、発見が多かった。
- ・“人間”としてリスペクトすることの大切さを改めて気づかされた。
- ・アメリカでの障害者の歴史や思いを直接聞いたことで、私の心のバリアフリーが一步前進したように思う。

④ 第二部の満足度はどの程度ですか

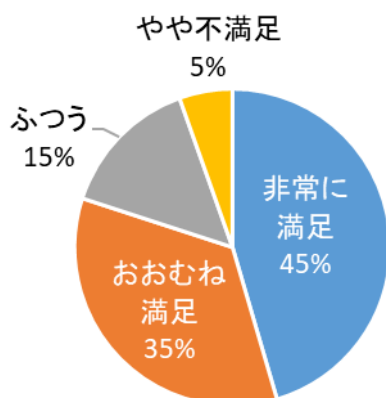


<主なご意見>

- ・アメリカの障害者の生の声、パラスポーツ選手の生の話を聴けてとても有意義だった。
- ・フランクに話が聞けてよかった。スポーツの裏話も聞けた。
- ・スポーツに対する高い意識とコミュニケーションの大切さを強調されていたのが印象的だった。
- ・パラ選手だけでなく、商店街理事長や学生も参加したのは意外だったがよかった。
- ・それぞれの分野で頑張っている皆さんのお話はとても心に響いた。
- ・手を貸す、声をかける、リスペクトする が重要なのだと思った。
- ・「相手に対する敬意」がキーワードではないかと思う。とかく障害者は「できない」ことを数え上げられ侮られたり見下されたりする。同じ人間として対等の目線、相手を尊重する心が大切。

- ・ユーモアを交えながらのやり取りがとてもよかった。
- ・どんな質問にも、パラリンピアンが真摯に答えてくれてよかった。
- ・単なるスポーツマンだけでなく、ロジカルなメッセージをプレゼンできるレベルの高い人材であると感じた。
- ・瀧さんがとてもしっかりしていて素敵だった。
- ・瀧さんの、商店街のまち歩きでの「ハード面のバリアフリーはまだまだ、心遣い、心のバリアフリーを感じた」という言葉が印象的だった。
- ・アメリカでは手助けしてくれる人が多すぎて困るというパラリンピアンが発言が衝撃だった、という瀧さんの言葉が、日本の現状と思った。
- ・パネラー同士の対話にもつながればよりよかったと思う。
- ・様々な方面の方が参加して下さったが、少し時間が足らなかったように思う。もっと時間をとっていろんな話を聞きたかった。

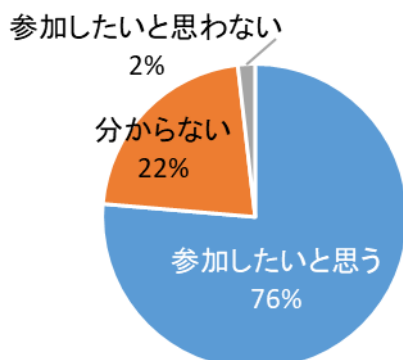
⑤主催者団体の対応はいかがでしたか



<主なご意見>

- ・門から会場まで道案内があつてよかった。
- ・学生さんが頑張っていた。
- ・机のある会場でメモが取りやすくよかった。
- ・冷房が効きすぎて寒かった。
- ・スタッフが動きすぎていた。

⑥今後同様のイベントがあった場合、参加したいですか



⑦今後参加してみたいイベント内容やご要望は

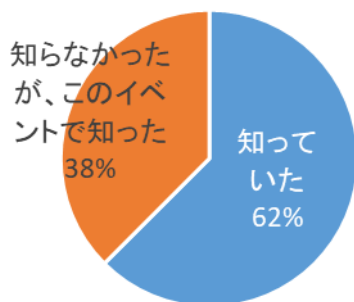
- ・パラスポーツの体験をしてみたい。
- ・スポーツと絡めた会に参加したい。
- ・平日の参加は難しいので土日に開催してほしい。
- ・見た目に分かり、配慮してもらいやすい障害だけでなく、分かりづらい障害（知的精神発達）の方々の理解を深める機会も作ってほしい。

⑧シンポジウム全体を通してのご意見・ご感想

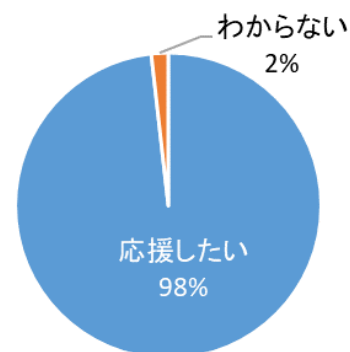
- ・もっと区民に周知が必要と思う。とてもよい講演だった。
- ・自分に差別する意思がなくても自然にすりこまれているのが差別なのかなと思った。
- ・日本では“できない”ところを察して周囲が動かなくてはいけない、という雰囲気が強いと感じる。「察しなければいけない」ということが強すぎると、失敗は許されないことになり、固い関係になる。障害のカミングアウトも難しさを感じる。考えさせられた。
- ・スペシャルオリンピックスにも言及してほしかった。
- ・世田谷区が実現したい「共生社会」が、シンポジウムであまり触れられていなかったのが気になった。
- ・来年と言わず、年に何回かこういうシンポジウムが活性化され開催されるとよい。
- ・スペシャルゲストに廣瀬さんがいらして驚いた。学生さんのお話も聞けてよかった。心のバリアフリーを進めるために、何をしたらよいのか難しい課題だと思うが、これからもいろいろな企画を期待する。
- ・車いすで登壇するときのスロープは角度がややきつそうだった。
- ・車いす用のトイレが少し変わった様式で戸惑ったが、言葉をかけて下さる方がいて助かった。この場を借りてお礼申し上げます。
- ・廣瀬さんのツイッターを見て軽い気持ちで参加した。パラスポーツを通して心のバリアフリーの勉強になった。2020setagaya の何らかのお手伝いをしたい。
- ・来年4月に日大に入学し、福祉に関することを学んでいくので、今日得たものを忘れずに頑張ります。
- ・子供にも今日のことを伝えたいと思う。
- ・とても勉強になった。新しい気づき、また自分の人生の活力となった。とても元気をもらって素晴らしい一日となった。
- ・日大の皆さま、ありがとうございました。

4. 共生社会ホストタウンについて

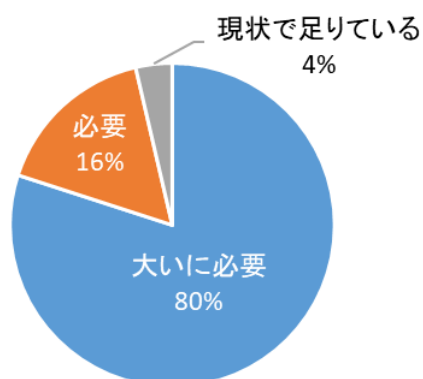
①世田谷区が共生社会ホストタウンになっていることを知っていましたか



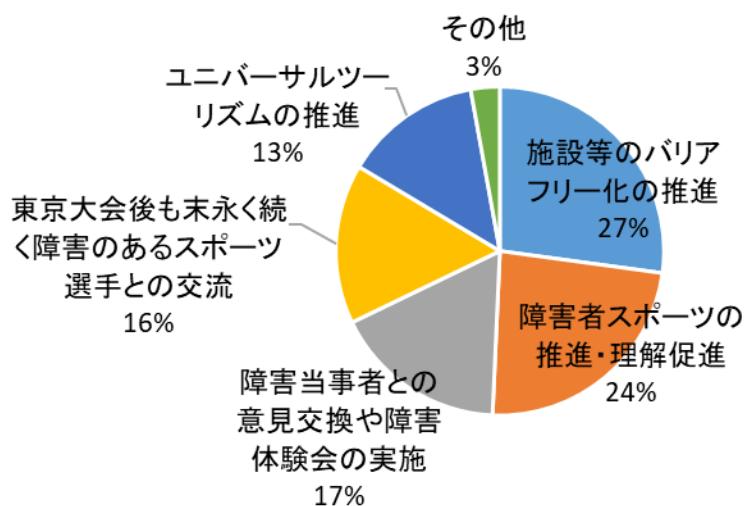
②本日のイベントを通じて、パラリンピックの出場選手を応援したいと思いましたが



③障害がある人が地域社会やイベントなどで活躍できる場を増やすことが必要だと思いますか



④共生社会ホストタウンの取組みとして、今後、どのようなことを期待しますか
(複数回答)



<主なご意見>

- ・ヘルプマークの理解が進むこと。
- ・2020年の大会後も、心のバリアフリーへの活動が続くこと。
- ・パラリンピックがあつて、社会が変わつた・よくなつたと実感できること。
- ・人の考え方や価値観が変化すること。

5. その他気づいた点やご意見等

- ・私は北米で長く生活していたので、やはり日本は少し遅れていると感じる。もう少し障害者も含め他人に興味を持つ姿勢を日本人に持ってほしい。
- ・アメリカはすべて人権を要求するアクションからスタートしている。黒人もバリアフリーも一緒。日本はそこが不明確で誰かが抑圧されたり、不自由な存在を隠す精神性が強いため、勝ち取った権利意識がない、または知らされていない。メディアの問題も大きい。

- ・最近の周囲はほとんどが高齢者で杖や歩行器で歩く人ばかり。世田谷区自体が高齢化してバリアフリーをどこよりも推進しないとゴーストタウン化すると実感している。全員が弱者になりつつあることを認識すべき。
- ・“ゆるスポ”=競う、勝負の世界のスポーツと異なり“できる”ことに注目して“楽しむ”ためのルールを作っていく、遊びに毛が生えたようなゲーム。ルールにシビアで優勝を求めるスポーツではない考え方も必要ではないかと感じた。

6. 登壇された車いすラグビー代表へのメッセージより（一部抜粋）

- ・ラグビーワールドチャレンジ 2019 での優勝おめでとうございます。試合でお疲れのところ、素晴らしいお話をありがとうございました。我々の意識の中のバリアフリーは簡単なことではないかと思いますが、東京 2020 大会が大きなきっかけとなるよう、私も仕事を通じて頑張りたいと思います。
- ・ワールドチャレンジ チャンピオンおめでとうございます。本当に激しいスポーツで驚きました。2020 パラリンピックも素晴らしいパフォーマンスを楽しみにしています。また日本で待っています。
- ・時間を割いてくださったことに感謝します。一度でも直接姿を見た方の競技はすごく身近に感じるし応援したくなります。ケガに気をつけてナイスゲームを見せてください！
- ・優勝おめでとうございます。日本も強いと聞いていましたが、素晴らしい戦績です。日本はもっとバリアフリーと心のバリアフリーを推進しますので、どうぞまた来日してください

アンケート結果を踏まえての実施報告

1. 参加者について

参加者は、行政関係・地域活動団体・障害者団体が多く、「心のバリアフリー」に関心がある層の割合が高い一方、ゲストがパラリンピアンなど著名人であったため、「(障害者) スポーツ」の切り口からも興味を持たれたことが分かる。

また、参加を区民に限定せず、時間帯も平日日中であったことなどから、近隣を含めた広い地域からの来場者があった。従来の「障害者・まち 交流塾」は、平日夜に開催されていたが、今回は日中で、会場が大学ということもあり、学生（入学予定の高校生含む）の参加があったことなど、年齢層にも広がりが見えた。

2. 実施効果

「共生社会実現」「パラリンピック」に関して、いずれも関心が高まったとの回答が大勢を占めた。前日の「車いすラグビーワールドチャレンジ 2019」で優勝したメンバーが登場したこと、ラグビーワールドカップも日本で開催されており、話題性のある時期であったことに加え、メディアに登場している著名人がスペシャルゲストとして来場されたため、パラリンピック、特に車いすラグビーへの関心が高まったという声が非常に多かった。同時に「今まで知らなかった」、「知らなかったことに気づかされた」という意見もあり、意識を向けさせる・興味を持たせる目的は大いに達成されたと思われる。

3. 第一部 チャック・アオキ氏の講演について

満足度は大変高かった。アメリカは世界で初めて、障害を理由とする差別を禁止した法律、ADA法（障害を持つアメリカ人法）を制定した国であり、その精神が社会に根付いている点が日本と大きく違う。日本でも障害者差別解消法が施行されて3年以上経つが、国民の認知度は大変低く、障害者を「障害者」と一括りにするのではなく、一人ひとりの個性ある「個人」であるという、本来当たり前である認識すら、参加者には目新しく捉えられた様子が窺える。

アスリートの視線から、スポーツを通しての話であったため、堅苦しくなく、身近でアクティブな印象もあり、力強いメッセージを受け取ったと捉えた意見も多くあった。

「無意識のうちに、周囲が挑戦の機会を奪っている」という発言に対しては、悪気なく「差別」してしまっている現実に、障害者差別の根深さを痛感した参加者も多かったと思われる。

4. 第二部 パネルディスカッションについて

こちら満足度は高かった。登壇者のアメリカ人特有の明るさ、前日の優勝チームを祝福する客席のムード、コーディネーターのユーモアを交えた進行などから、終始、柔らかい雰囲気であった。スペースの都合上致し方なかったのだが、コーディネーターが客席側に位置していたのも、登壇者と客席とが一体化してよかったのかもしれない。

登壇者は、パラアスリートのほか、元選手、商店街関係者、学生（障害当事者）と、分野が様々だが、それぞれの立場から感じる「バリアフリー」についての思いが語られ、チームメイト同士、障害者と健常者、商店と客、いずれもコミュニケーションが大切であることが確認された。ハード面でのバリアは、心のバリアフリーでクリアできるといった発言もあり、そのためにも、コミュニケーションの取り方が重要となる。言葉を介さないスポーツも答えの一例であるが、相手を理解する、体験を重ねる、敬意を持って接する 等、コミュニケーションをうまく取る方法を見つけることが課題として見出された。

5. 全体を通じて、今後に向けて

・バリアフリーについて考える機運の継続を

講演、パネルディスカッションともに、満足度は高く、このような機会をもっと設けてほしいと望む声も多く聞かれた。幸い、来年に迫った大会に向けて、これからも盛り上がりを見せると思われるが、その後が重要になる。瀧氏の発言にもあったが、せっかく盛り上がったバリアフリーへの関心の機運を大会終了とともに終わらせず、継続性を持たせるために何ができるのかを考える必要がある（シンポジウム等の開催、障害者スポーツ体験会、当事者との交流 等）。

・技術の進化、福祉用具やツール等の普及

パラリンピアンは、自らの身体に完全にカスタマイズされた車いすによって、最高のパフォーマンスが可能となり、それを見た他の障害者に夢や希望を与えられる。心や目に見えないものも、もちろん大切だが、物理的な面での進化も、一度きりの人生を充実させる上で重要となる。コミュニケーションを促進する上でも、様々なツールの開発・普及が望まれる。

また、単に物が供給されるだけでなく、適合性が重要。使用する人の状態・用途にマッチしたものでないと効果は発揮できない。それを見極める目を養うこと、その機会を提供することも必要となってくる。